

You, Unlimited

龍谷大学大学院

政策学研究科

Graduate School of

Policy Science

2026



政策学研究科

Graduate School of Policy Science

持続可能な発展論に立脚した 政策立案・実施能力を有する人材を養成します

政策学研究科では、建学の精神に基づいて、市民的公共性と持続可能な発展への貢献を志向性として獲得し、地域が抱える具体的課題を政策分析の対象として扱うことができる政策学の学問的知識を修得し、地域の課題を設定して解決できる能力を有する専門的職業人及び研究者を養成することを目的としています。

本研究科では、社会人大学院生と若手大学院生がセクターを越えて教育・研究に参加することで生まれるシナジー効果による新しい学びを展開し、また、大学と地域社会が協働して行う共同研究や研究プロジェクトの成果を研究科での学びへ還元することによる充実した教育を提供しています。

実際の学びにおいては、市民的公共性を持つ高度な専門的職業人、革新的な発想によって新たな価値を創造する高度な専門的職業人および研究者を養成するため、学修の目標を明確にし、系統的な科目履修を積極的に進めていくことを目的として、3つのコースを設けています。

また、仕事や社会生活の場で活用することができる実践的あるいは実務的な能力の獲得をめざした科目を配置するとともに、夜間や土曜日も開講し、社会人が働きながら学ぶことができるカリキュラムを編成・実施しています。

本学の政策学研究科では、「政策」という言葉を、政府や自治体の方針を指すものとしてだけでなく、企業やNPOあるいは市民活動などのいわゆる民間の活動も含めて論じます。政策学の研究は担い手のあり方も含め、非常に立体的でダイナミックな研究アプローチとなっています。

多様な専門的職業人を育てる

持続可能な発展という視点を基礎におき、参加と協働による地域政策について、理論と実践の両面から研究を展開します。

POINT

「地域公共政策士」、「ソーシャルイノベーションデザイナー(SI-D)」 の資格取得が可能

地域の課題解決に向け、セクターを越えたコーディネートができる人材となるための資格教育プログラムを用意しています。

教育理念・目的

建学の精神に基づいて、共生の哲学を基礎に、現代的で人類的な課題に対する専門知識に支えられた市民的思考力と、協働による課題解決アプローチを構想できる政策研究能力を修得し、政策の立案実施にかかる能力を持った人材を養成することを目的とする。

専攻	修士課程	博士後期課程
政策学専攻	市民的公共性と持続可能な発展への貢献を志向性として獲得し、地域がかかえる具体的課題を政策分析の対象として扱うことができる政策学の学問的知識を修得し、地域の課題を設定して解決できる能力を有する専門的職業人及び研究者を養成する。	市民的公共性と持続可能な発展という考え方を自ら考察でき、地域課題を包括的で統合的な政策によって解決できる政策学の知識と構想力を有する研究者及びより高度な専門的職業人を養成する。

研究科長メッセージ

「ソーシャル・イノベーション」への社会的要請に挑戦する

政策学研究科は、2011年の開設以来、「現代的で人類的な課題に対する専門知識に支えられた市民的思考力」と「協働による課題解決アプローチを構想できる政策研究能力」を有する人材の養成を進めてきました。そして2025年度から、われわれは新たな挑戦をスタートします。政策学をアカデミックに追求する「政策学研究コース」、政策学の知識を実践の現場で活用する能力を養う「NPO・地方行政研究コース」という既存の2コースに加えて、地域課題にイノバティブな考えと手法で取り組み、新たな付加価値を生み出す人材を養成する「ソーシャル・イノベーション研究コース」を新たに開設します。

現代社会の課題は、少子高齢化にともなう福祉・財政問題、国内外で深刻化する経済格差、IT犯罪、ジェンダーやLGBTQ、気候変動・エネルギー問題など、多様な領域にわたります。政策学研究科はこれまで、これらの課題に「公共」と「協働」というキーワードを軸にアプローチし、「地域公共人材」を養成する教育プログラムを提供してきました。今回のコース新設は、この2つの軸に「イノベーション」という新たな軸を加え、「社会課題の原因を多面的視点から見抜く力」と「多様な領域の知見を組み合わせる新たな価値を創造する力」を養成する教育プログラムへと発展させることを企図しています。

ソーシャル・イノベーションという言葉から、ビジネス・パーソンや起業を志す人向けと思われるかもしれませんが、本プログラムの射程はこれらの方々だけにとどまりません。ビジネス・セクターはもちろんですが、地方自治体などの政府セクターや、NPOや非営利法人などの市民社会セクターにおいても、「イノベーション」への要請は高まっています。われわれの教育プログラムでは、どの研究コースに所属しても、ほぼすべての講義を受講できる柔軟な体制を整えており、受講者の関心や職種に応じた「イノベーション」へのアプローチを学ぶことを可能にしています。

われわれはまた、リスキリングやリカレントといった学び直しへの社会的要請への対応も重視しています。キャリアチェンジを志す方だけでなく、所属する組織内で直面する課題にイノバティブな視点で対応する能力を強化したい方にも、充実した学びの機会を提供します。

当研究科のもう1つの特徴が、院生の多様性です。若手の学部卒業生から、キャリア形成を目指す現役の社会人、リタイア後に生涯学習として学ぶ方、そして海外からの留学生まで、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が集います。この多様な院生が有する多彩な知識や経験にもとづいた活発な議論が、他にはない学びの相乗効果を生み出す原動力となっています。

最後に、当研究科は、環境・地域政策、都市計画、経営学、経済学、法学など、専門も経験も多彩かつ豊富で、そして何より教育に情熱を注ぐ教授陣と、院生の皆さんの学びを親身にサポートする事務局体制を備えています。政策学研究科での学びを通じて、複雑化する現代社会の課題に果敢に挑む力を身に付けながら、充実した学びの時間を私たちと共に過ごして頂きたいと思います。志の高い皆さんの入学を心よりお待ちしております。



政策学研究科長
的場 信敬 教授

修士課程

政策学研究科では「政策学研究コース」「NPO・地方行政研究コース」「ソーシャル・イノベーション研究コース」の3コース制で幅広い学修機会を提供します。

修士課程 政策学専攻

政策学研究コース

政策学研究に重点をおく大学院生を対象に、持続可能な発展という視点を基礎におきながら、参加と協働による地域政策について理論と実践の両面から研究を展開します。

政治学、行政学、地域経済学、財政学、都市政策論など地域ガバナンスにかかわる多様な科目のほか、環境や社会保障など政策分野の専門科目が配置されており、政策学全般の学術的な研究に関する科目を学修することで、政策学分野の学術的な研究力を修得します。

NPO・地方行政研究コース

地域における課題とその解決方法を実践的に研究したい行政・NPOをはじめとする様々なセクターの職業人と、若い大学院生とのシナジー効果によって、視点を新たにしながら、現場を変えたいという使命感と実務能力をもった高度な専門的職業人を養成します。都市や農村に関する政策や、エネルギーや環境、コミュニティに関する理論や実践科目のほか、地域公共人材実践演習など地域における課題とその解決方法を実践的に研究する科目を学修することで、地域課題の分析と課題解決の力を修得します。

ソーシャル・イノベーション研究コース

社会的ニーズを満たすための新たな価値創造を実践的に研究したいビジネス・パーソンをはじめとする様々な職業人と、若い大学院生とのシナジー効果によって、新しい価値の創造を通じて社会を革新したいという実践的な専門的職業人を養成します。まちづくりやローカルビジネス、イノベーションに関する理論や実践科目のほか、ソーシャル・イノベーション実践演習など革新的な発想によって地域のポテンシャルの新たな活かし方を実践的に研究する科目を学修することで、地域ポテンシャルの発掘と価値創造の力を修得します。



博士後期課程

政策学専攻

市民的公共性と持続可能な発展という考え方を自ら考察でき、地域課題を包括的で統合的な政策によって解決できる政策学の知識と構想力を有する研究者及び、より高度な専門性をもつ地域公共人材を養成します。

3年間にわたり「特別演習」を必修科目として開講し、指導教員が研究ならびに履修指導を行います。また、研究者あるいはより高度の専門的職業人としての能力の獲得のために、「政策学研究」と「プロジェクト型研究」等の科目を開講しています。

政策学研究科の6つの特色

1 平日夜間や土曜日中心の科目開講

社会人は通常の業務を継続したまま学べる平日夜間・土曜日中心の科目開講となっています。学部卒院生は平日日中には地域での取り組みやインターンシップなどに参加することも可能で、時間を有効に活用できます。

2 特別演習(必修)

複数の教員、社会人院生(自治体、NPO、経済団体、民間企業など)、学部卒院生という構成メンバーで議論を中心にゼミを展開。法学、政策学研究科の複数の教員が担当し、多様な背景をもつ院生による活発な議論をして、知的コミュニティを創出する場になっています。

3 メンター制度

1年次第1学期には、受講科目選択や研究についての相談は教育メンターが対応します。政策学研究科には入学直後から研究に関する困りごとをすぐに相談できるサポート体制が整っています。

4 奨学金制度

研究活動を積極的に行う院生に給付する「研究活動支援給付奨学金」や学業成績が優秀で人物的にも優れた院生に給付する「成績優秀者給付奨学金」など、本学独自の奨学金制度で経済的な側面からも大学院での学修をサポートします。

5 長期履修制度

職業を有している等の事情により、通常の修了年限では履修が困難な学生を対象に、修士課程・博士後期課程とも6年間を上限とし、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することができる制度を設けています。

6 早期履修(本学政策学部生対象)

本学政策学部生が進学を希望する場合は、一定の条件を満たせば、4年次に大学院科目を履修できます。大学院進学後に修了要件の単位として認定されます。この制度を利用すると、大学院での学びのステップになると同時に、進学後に時間的な余裕ができるので自らの研究にじっくり取り組むことができます。

在学生からのメッセージ

分野横断的な学びがここにある

佐竹 星哉 さん

修士課程 政策学研究コース2年

大学院生と聞くと孤独に研究に励むものと想像される方もいるかと思いますが、専門分野の垣根を超えて様々なルーツを持つ学友と学びを深める最良の機会が政策学研究科にはあります。私のような学部卒の大学院生や留学生、社会人として社会に携わりながら研究活動をされている社会人大学院生、定年後にも飽くなき探究心を持って研究に臨まれている大学院生もいます。さらに、実際の政策立案や地域課題解決に関わるPBL型の講義も開講されており、理論と実践を結びつけながら研究に取り組むことができることも特徴の一つです。ぜひ一緒に学び、未来を創っていきましょう。



リカレント教育を多くの女性達へ

林 リエ さん

修士課程 ソーシャル・イノベーション研究コース1年

完全無所属で市議に挑戦し2年が過ぎます。社会課題が山積みの昨今、少しでも素敵な地域社会を未来へバトンしたい一心で政治家になったものの、政治家としてもっと成長したい気持ちが日に日に強くなりました。

女性の社会参画がしやすい社会になりましたが、私が子育てを始めた20年前は、女性が子育てや介護を担うのが普通でした。子育てを経験でき成長できたと強く感じています。自分の望む人生を後回しにしたのも事実です。

人生100年時代となった今、子育てが一段落した私は、自分のために使える時間で、自分の学びたいこと、研究したいことに挑戦できる今にワクワクしています。素晴らしい先生方と仲間、我が子と同じ年代の学生との出逢いも楽しみです。

一度きりの人生!出逢いと選択で未来は大きく変貌します。私の新たな挑戦がスタートです!

修了生からのメッセージ



色々な学びに出会える

石黒 壮真 さん

2024年度 修士課程 政策学研究コース修了

私は、政策学研究科で都市計画や都市デザインについて学びました。在籍中、修士論文執筆のために、積極的に学会に参加してきました。そこで、他大学の先生方からご意見をいただく機会や、質の高い研究を聞く機会があり、自身の研究に活かすことができました。これは、政策学研究科や大学の支援制度が充実していたおかげでたくさんの学会に参加できたからこそだと考えています。

政策学研究科には、様々な分野を専門とする先生方や社会人を含む幅広い年代の院生がいます。そのため、特別演習や講義において異なる経験や分野に基づく議論や助言をいただくことができます。普段、都市計画の研究ばかりをしていた私にとっては、自身の視野や知見を大きく広げてくれる貴重な機会でした。

政策学研究科での2年間を振り返ると、色々な学び、出会いがあり大きく成長できた期間だったと考えています。



悔いのない選択

安井 慶子 さん

2024年度 修士課程 NPO・地方行政コース修了

学部生時代に関心を持ったNPOやソーシャルビジネスについて、今ある政策学研究科の環境下でより専門的な学びを通じて理解を深め、研究に励みたいと思い進学を決意しました。

研究を進める中で、自分の考えを言語化し伝えることは非常に難しく、研究分野の異なる方へ研究意義や背景を適切に表現するには、単に知識を深めるだけでなく伝えるための技術や視点も必要だと痛感しました。2年間の学びの過程で、政策学研究科の先生方や多世代の院生と関わり、物事を知り考え続けることの大切さや楽しさを改めて実感し、研究や講義での学びに留まらずこうした気づきや経験も大学院で学ぶ意味であるようにも感じています。

今後は、大学院で培った専門的な知識と研究を通じて得た思考力や表現力を活かし、より良い社会の実現に向けて努力していきたいと思っています。

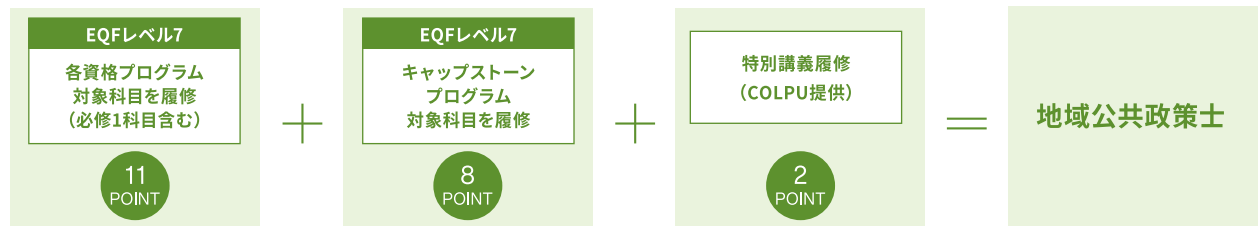
地域公共政策士の資格取得について

政策学研究科は「地域公共政策士」資格制度に対応しています。この資格は、2011年度から本格運用が始まった京都発の地域資格です。地域公共政策の担い手に求められる能力を育成するカリキュラムを履修し、所定のポイントを取得すれば、認定機関である一般財団法人地域公共人材開発機構(COLPU)によって資格が付与されます。この資格に関するプログラムは、京都の4大学と沖縄の1大学で実施されています。この資格の特徴としては、①どのようなプログラムで、どのような能力を得たのかははっきり「見える」こと、②学問的資格でもあり、職能的資格でもあること、③各大学のプログラムを組み合わせることで、画一的でない、特色ある能力を修得できること、④EUの教育・職能資格で用いられるEQF(European Qualifications Framework)レベルを参照していることが挙げられます。

なお、詳細については、一般財団法人地域公共人材開発機構のホームページ <http://www.colpu.org/> をご覧ください。



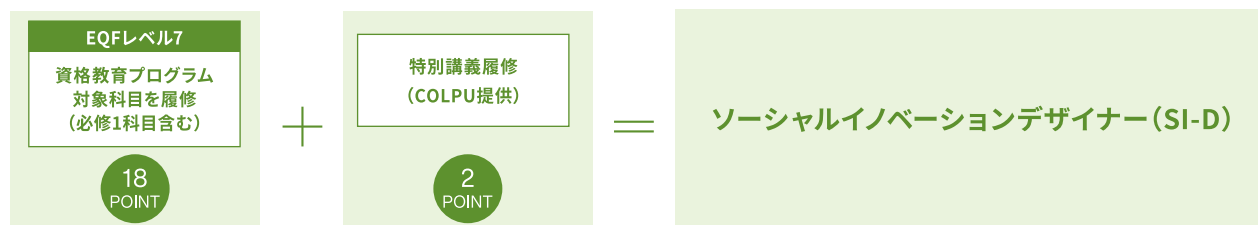
地域公共政策士 資格取得までの流れ



ソーシャルイノベーションデザイナー(SI-D)の資格取得について

ソーシャルイノベーションデザイナー(SI-D)資格は、ソーシャル・イノベーション人材のための職能資格です。認証された資格教育プログラムを修了し、資格申請すると、本資格が取得できます。学習アウトカムのレベルは、EUの教育・職能資格で用いられるEQFを参照し設定されています。本資格はソーシャル・イノベーションで求められる能力を有していることの証明となります。

ソーシャルイノベーションデザイナー(SI-D) 資格取得までの流れ



地域公共人材総合研究プログラム

協働型社会において活躍する「地域公共人材」、「ソーシャル・イノベーション人材」の育成をめざした研究科横断型プログラム

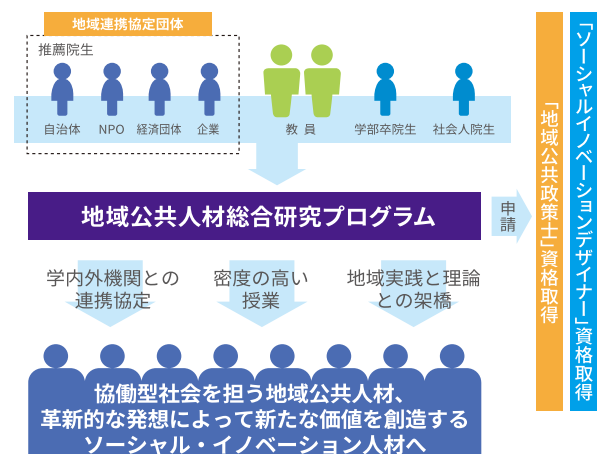
複数の研究科で共同運営を行っている研究科横断型のプログラムです。法学研究科、政策学研究科が設置する以下のコースに所属することで、他研究科が開講する科目を受講することができます。(ただし、研究科によって開講科目は異なります)

必修科目である「特別演習」では、他研究科所属教員からの指導を受けることも可能となり、研究科の枠を越えた学びを実現しています。なお、修士論文の指導は所属研究科の教員が行います。

また、社会人にも配慮した時間割・カリキュラム構成となっており、社会人学生と若手の学生が共に学びのコミュニティを形成しています。

研究科と所属するコース

研究科	所属コース
法学研究科	—
政策学研究科	NPO・地方行政研究コース ソーシャル・イノベーション研究コース



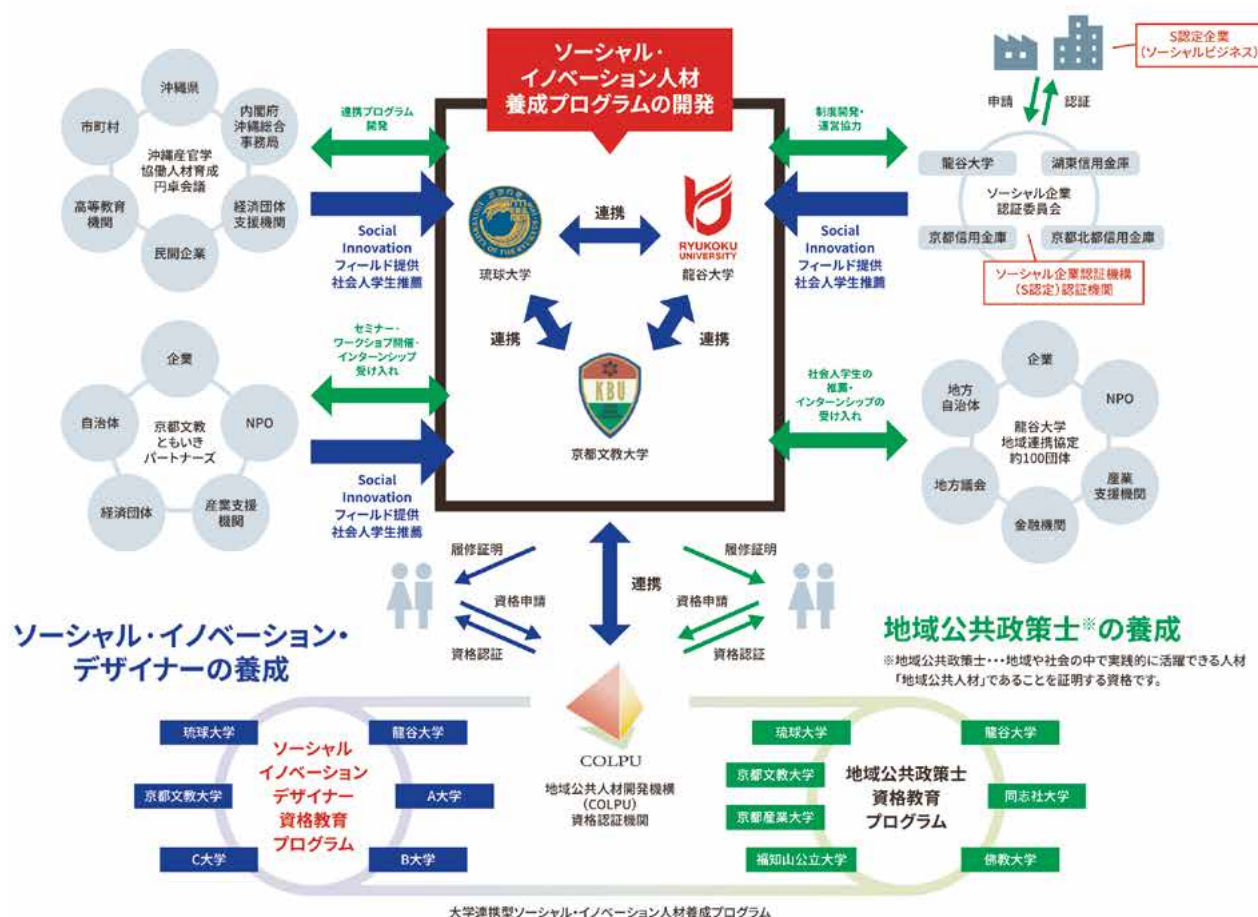
大学連携型ソーシャル・イノベーション人材養成プログラム

大学連携型ソーシャル・イノベーション人材養成プログラムとは、龍谷大学が代表校となり、琉球大学、京都文教大学の3大学で文部科学省「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」に共同申請したプログラムのことです。2023年9月に私立大学が代表校を務める唯一のプロジェクトとして採択されました。

本事業は、人文・社会科学系の大学院が連携することで、単独では成し得なかった幅広く多様な知見を融合させたダイナミックな大学院教育を促進するものです。本学大学院政策学研究科と琉球大学大学院地域共創研究科、京都文教大学大学院臨床心理学研究科の3研究科によって、質保証のための資格認証制度の仕組みを確立し、「ソーシャルイノベーションデザイナー(SI-D)」資格認証制度を開発・運用します。

3つの大学院の連携によって、人文・社会科学系のほとんどの研究領域をカバーした高度で多様な知見の融合が可能になり、ソーシャル・イノベーションに必要な「社会課題の要因を多面的な視点から見抜く力」、「多様な領域の知見を組み合わせる付加価値を生む力」を持つ人材を養成していきます。

授業はオンラインを活用しながら、対面形式も取り入れたフィールドワーク(京都・沖縄)や報告会等を実施する予定です。詳細は「大学連携ソーシャル・イノベーション人材養成プログラム」のWebサイトをご覧ください。



教育訓練給付金について

政策学研究科「修士課程」及び「博士後期課程」は、厚生労働省の教育訓練給付制度の一般教育訓練給付金対象講座に指定されています。受講資格を有する方が、入学手続き時に当該講座を申請し、受講期間終了時に修了要件を満たした場合、所定の手続きをとることで、当該講座受講に係る入学金及び授業料の20%に相当する額(上限10万円)をハローワーク(公共職業安定所)から教育訓練給付金として支給されます。

教育訓練給付制度については、厚生労働省ホームページでご確認ください。[<https://www.mhlw.go.jp/>]

なお、本学における手続きについては、政策学部教務課にお問い合わせください。



チーム政策スタッフ紹介

2025年4月1日現在



氏 名	専 門 分 野
阿部 大輔 [教授]	都市計画・都市デザイン／まちづくり論
安 周永 [教授]	政治学／雇用政策・福祉政策
石倉 研 [准教授]	環境経済学／地域経済学
石原 凌河 [准教授]	地域レジリエンス／都市計画／まちづくり
井上 芳恵 [准教授]	都市計画学／地域居住学／まちづくり
今里 佳奈子 [教授]	行政学
碓井 智子 [准教授]	認知言語学
内田 恭彦 [教授]	人的資源管理論／知的資本経営論
大石 尚子 [教授]	地域イノベーション
大島 堅一 [教授]	環境経済学
大田 直史 [教授]	行政法
奥野 恒久 [教授]	憲法学
金 紅実 [准教授]	環境経済学／環境政策／環境行財政システム
櫻井 次郎 [教授]	環境法・政策／中国法
清水 万由子 [教授]	環境社会学／環境政策論
白石 克孝 [教授]	地域政策／公共政策／地域エネルギー政策
高畑 重勝 [教授]	地域産業政策／地方公務員
只友 景士 [教授]	財政学／地方財政論／環境経済学
谷垣 岳人 [准教授]	進化生態学
地頭所 里紗 [講師]	国際マーケティング・消費者行動
中森 孝文 [教授] (学部長)	経営学／知的資産経営／ナレッジ・マネジメント
南島 和久 [教授]	公共政策学
服部 圭郎 [教授]	都市研究／コミュニティ・デザイン／フィールド・スタディ
深尾 昌峰 [教授]	非営利組織論／ローカルファイナンス
船田 智史 [教授]	科学教育／情報教育／数学教育
松浦 さと子 [教授]	社会学／コミュニティメディア論
松田 繁樹 [准教授]	スポーツ科学
的場 信敬 [教授] (研究科長)	地域ガバナンス論・持続可能性論
壬生 泰紀 [講師]	インド仏教
村田 和代 [教授]	社会言語学 (コミュニケーション研究)
吉本 圭佑 [准教授]	理論言語学 (統語論)

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学大学院 政策学研究科

新たな知と価値を創造するために、
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に対峙し、
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

深草キャンパス 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2285 seisaku@ad.ryukoku.ac.jp



政策学研究科のHPはコチラから

<https://www.policy.ryukoku.ac.jp/g/>

■ 入試について

「2026年度入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/>

■ 学費・諸会費について

2026年度学費・諸会費については、「2026年度入学試験要項」をご参照ください。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2025年5月発行

